

私立大学図書館協会東地区部会研究分科会研究報告大会

パブリック・サービス研究分科会
研究発表

パブリック・サービス研究分科会の活動

■ 講義

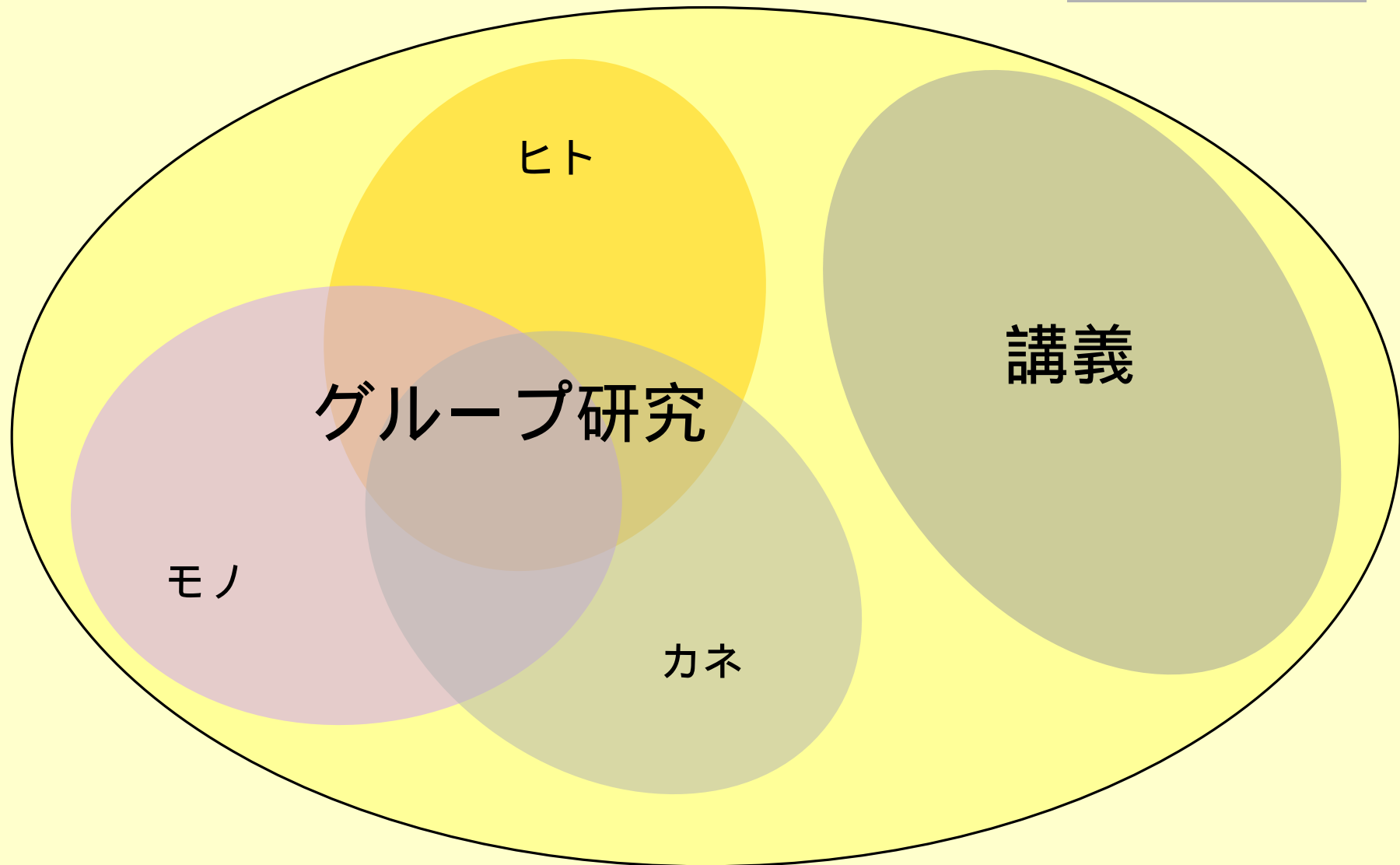
図書館業界の最新動向、専門性を高めるための基本的な情報など

■ グループ研究

経営・組織の3要素

「ヒト」「モノ」「カネ」の3グループ

バブリック・サービス研究分科会の活動



バブリック・サービス研究分科会講義録

04年	5月	大学図書館におけるリーダーとは:ある事務長の経験に基づく声	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	5月	慶應義塾大学図書館の経営戦略	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	6月	大学図書館における著作権問題	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	6月	大学図書館におけるアウトソーシングの意味:(慶應義塾図書館の場合)	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	7月	Bibliographer育成の実際	筒井利子氏(慶應義塾大学三田メディアセンター)
	7月	研究者から見た専門職としての図書館員の必要性	高橋 智氏(慶應義塾大学三田メディアセンター)
	9月	大学改革と専門職の必要性:国際化の見地から	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	9月	図書館経営から見たリスクマネジメント(危機管理)	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	9月	図書館コンソーシアムとは:図書館のサービス充実に向けて	加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
	10月	システムライブラリアンとしてユビキタス時代を生き抜くための戦略的アプローチ	田邊 稔氏(慶應義塾大学メディアセンター本部課長代理)
	10月	図書館システムの現状と今後	佐藤康之氏(慶應義塾大学メディアセンター本部)
	11月	三田メディアセンターでのホームページの管理・運用について	松本和子氏(慶應義塾大学三田メディアセンター)
	11月	図書館におけるデジタル情報の発信	原田隆史氏(慶應義塾大学文学部助教授)
	12月	トロント大学図書館の活動	リン・クツカケ氏(トロント大学図書館員)
	12月	海外派遣研修の報告と今後の課題	鷹尾道代氏(成城大学図書館員)
	12月	私立大学図書館協会海外集合研修報告	坂下景子氏(法政大学図書館員)
05年	1月	ケースメソッドを用いた図書館員教育の有効性	加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター長)
	3月	国立情報学研究所の事業～大学図書館とともに～	茂出木理子氏(国立情報学研究所・事業部コンテンツ課課長補佐)
	3月	大学図書館と情報流通	笹川郁夫氏(東京大学付属図書館事務部長)
	4月	図書館経営の案件アイテム:大学図書館の原点によりつつ思案中	牛崎 進氏(立教大学図書館事務部長)
	4月	さわやかな人間関係を作るコミュニケーション	山中淑江氏(立教大学学生相談所カウンセラー)
	5月	海外交換研修トロント大学へ:テクノロジーの変化と方向性	岡本 聖氏(慶應義塾大学三田メディアセンター パブリックサービス担当レファレンス)
	5月	デジタルネイティブ時代の図書館(像)とは	加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター長)
	6月	大学図書館 - 復帰5年目の挑戦	丸田政文氏(武蔵大学図書館研究情報センター事務長)
	7月	人文社会系図書館の選書について	梁瀬三千代氏(慶應義塾大学三田メディアセンター課長代理)
	7月	図書館サービスの評価指数	加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター長)
	9月	図書館業務の基本原則とは	加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター長)
	9月	ディベート :大学は、図書館員育成のために図書館外への異動をやめるべきだ。是か非か	
	9月	ディベート :私学経営危機の観点から、図書館の予算も削減すべきだ。是か非か。	
	10月	プロフェッショナルとしての大学行政管理職員(Administrator)を目指して - 護送船団思考からの脱却	阿久津興一氏(法政大学図書館事務部長)
	11月	今日からあなたもカタログ 分類(NDC)・目録(NCR)を使って目録を実際にとる演習	加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター長)

3つの研究グループ

- 「ヒト」 人材育成
- 「モノ」 リスクマネジメント
- 「カネ」 コンソーシアム

各グループの研究報告へ

大学図書館における危機管理

- 「個人情報保護のためのチェックシート」の作成を中心に -

リスクマネジメントグループ

リスクマネジメントグループ

発表要旨

1. はじめに
2. リスクマネジメントとは
3. 大学図書館におけるリスク
4. 個人情報保護法への対応
5. 「大学図書館員のための個人情報保護チェックシート」
6. おわりに

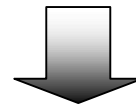
1.1 なぜ「危機管理」を考えるのか

大学図書館を取り巻く環境の変化

- 大学間競争、大学淘汰
- アウトソーシング
- サービス拡大(開館時間延長、開館日増加、地域開放)
- HP公開による情報アクセスの増加
- 図書館員の多様化(委託、嘱託、派遣、アルバイト)
- 出版社の動向
- 不況による治安の悪化
- 利用者の権利意識の高まり

1.1 なぜ「危機管理」を考えるのか

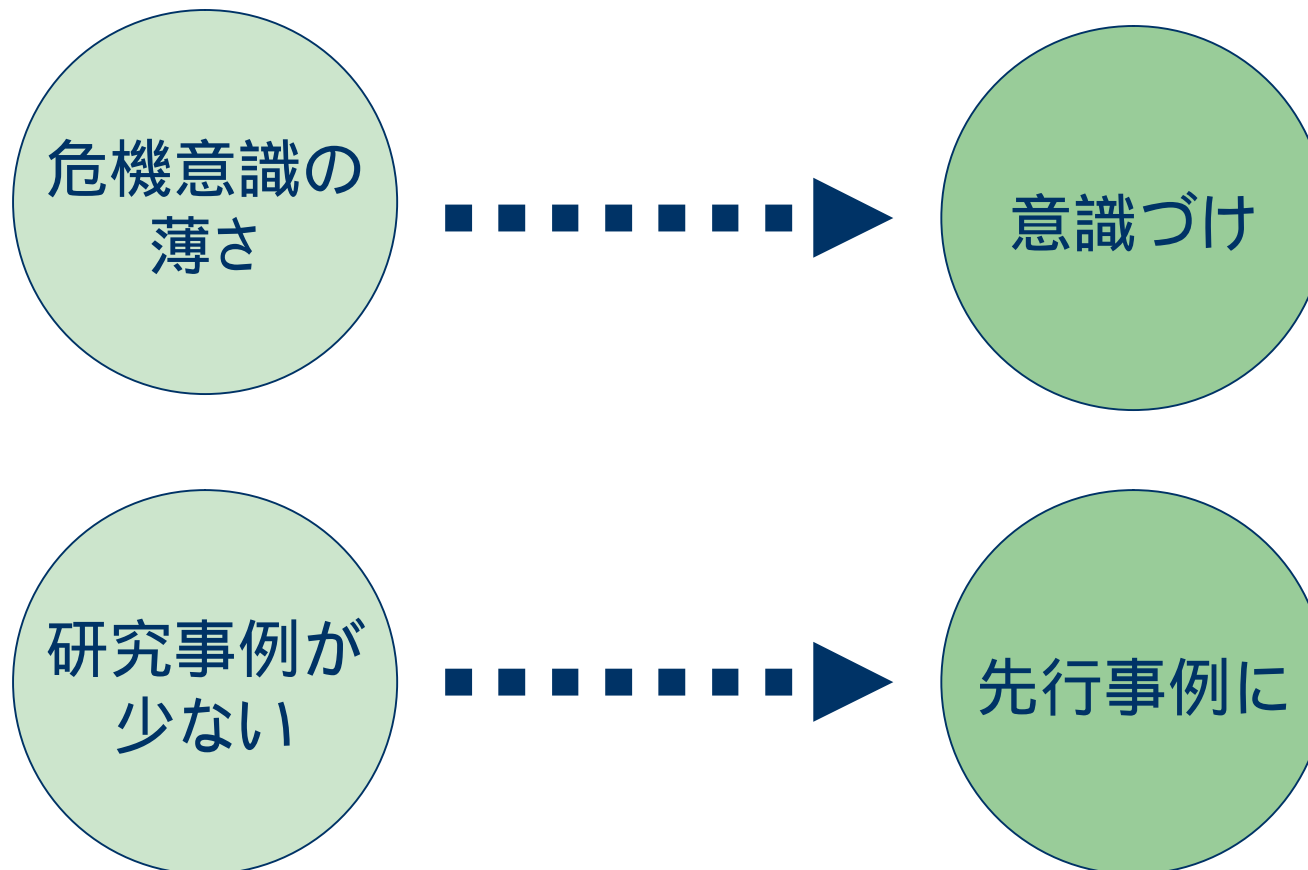
大学図書館を取り巻く環境の変化



潜在リスクの増加

周知された危機管理対策が必要

1.1 なぜ「危機管理」を考えるのか



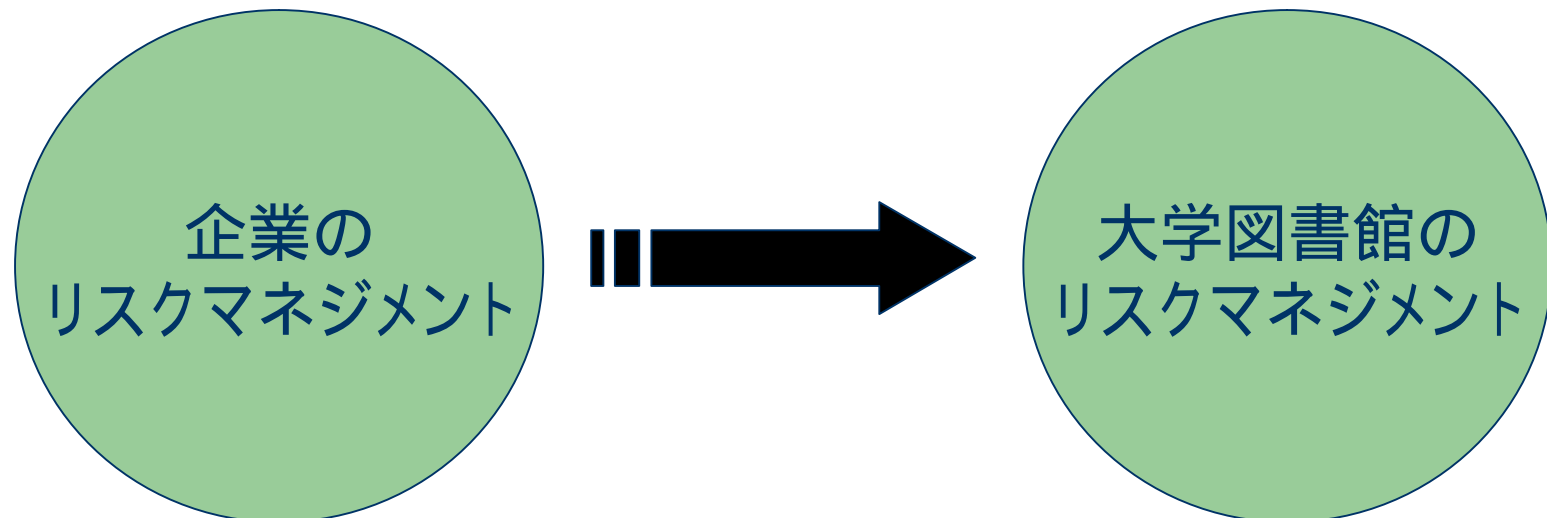
1.2 どのように「危機管理」を考えるのか

発生頻度の高い、現実的な問題を考える
既に議論されていることは省略

「危機管理」は管理職だけの問題ではない
大学図書館の事例に特化

2.1 リスクマネジメントとは

- 内外の突発的、潜在的要因による事件、事故に対する国家あるいは企業の管理手法のこと。
(imidas参照)



2.2 リスクマネジメントの重要性

なぜ、「危機」を考えることが重要なのか

事前対策

- 問題を未然に防止・予防するため

事後対応

- 問題発生による被害・影響を最小限に抑えるため

3.1 大学図書館におけるリスク

どのようなリスクが考えられるか

利用者関連

資料関連

設備関連

災害関連

人的関連

3.1 大学図書館におけるリスク

利用者関連

- マナーの悪さ(飲食、座席占有、おしゃべり、携帯電話・カメラの使用、PC・電卓の使用音)
- PC機器の不正利用、プリンタ乱用
- 利用者間トラブル
- 不審者の識別
- 過度のクレーム
- 犯罪行為、迷惑行為(ストーカー、盗撮)、盗難
- 病気・怪我・事故
- 個人情報保護 など

3.1 大学図書館におけるリスク

資料関連

- 破損(書き込み、切り取り)、汚損
- 盗難、紛失
- 電子資料の複製
- 所蔵リスク(特許関連資料・心理学関連資料など)
- 寄贈に関わるトラブル
- 洋雑誌の高騰 など

3.1 大学図書館におけるリスク

設備関連

- 老朽化、水漏れ
- 停電、空調の不調
- セキュリティー問題
- コンピュータウィルス、ハッキング、不正アクセス
- データ管理不備、各データの消失
- 障害者への対応(バリアフリー化) など

3.1 大学図書館におけるリスク

災害関係

- 地震
- 火災
- 水害
- 台風 など

3.1 大学図書館におけるリスク

人的関連

- 職員の減少、2007年問題(団塊世代の大量退職)
- 職員の過失、不祥事
- 職員間トラブル
- 有能スタッフの流出 など

3.2 リスクへの対応

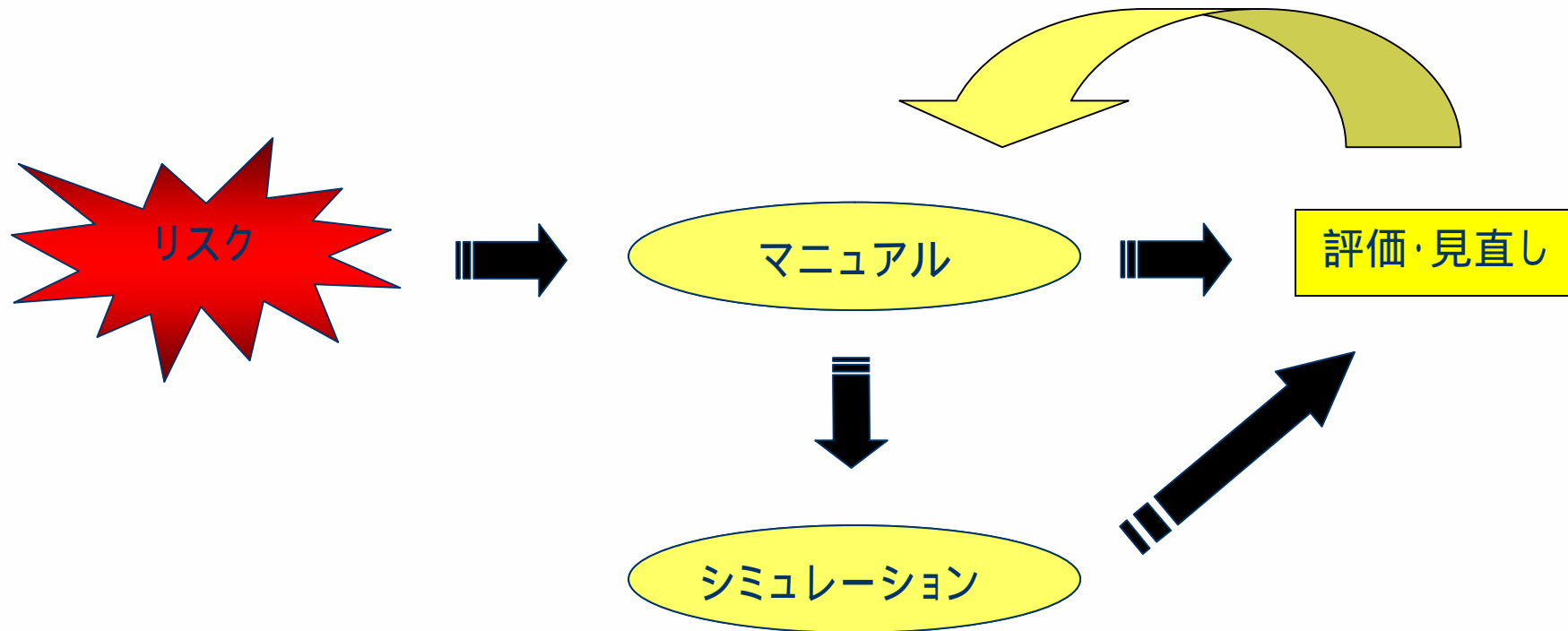
マニュアル方式

利用者関連
資料関連
人的関連

シミュレーション方式

利用者関連
設備関連
災害関連

3.2 リスクへの対応



4. 個人情報保護法への対応

2005年4月1日、個人情報保護法全面施行

- 他のリスクと異なり、法的な拘束力
- 意識、認識のズレ
(プライバシー問題との違い、過剰反応)
- 高リスク、高頻度
- 新鮮なテーマ

大学図書館員のための個人情報保護チェックシート

5.1 「大学図書館員のための 個人情報保護チェックシート」

【大学図書館員のための個人情報保護チェックシート】

設問 番号	質問内容	1回目日付 / /	2回目日付 / /
組織体制について			
1-1	大学としての「個人情報保護方針」を理解しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-2	全学方針の下、具体化した個人情報の管理方法が業務に反映されているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-3	個人情報保護（管理）責任者、個人情報保護委員会などが設置されているか *	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-4	個人情報の取り扱い者に対して、管理違反した場合の罰則が明確にされているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【大学図書館員のための個人情報保護チェックシート】

設問 番号	質問内容	1回目日付	2回目日付
		/ /	/ /
組織体制について			
1-1	大学としての「個人情報保護方針」を理解しているか	継続的な見直しが可能	
1-2	全学方針の下、具体化した個人情報の管理方法が業務に反映されているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-3	個人情報保護（管理）責任者、個人情報保護委員会などが設置されているか *	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-4	個人情報の取り扱い者に対して、管理違反した場合の罰則が明確にされているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
利用目的・収集・保存について			
2-1	収集している個人情報をすべて洗い出し、把握しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-2	個人情報の収集にあたり、その利用目的を明確に定めているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-3	個人情報の利用は、その目的内に限定しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-4	個人情報の利用に際して、その利用目的を明確に定めているか	質問を読んで、対応できている場合は「チェック」	
2-5	個人情報の利用に際して、その利用目的を明確に定めているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-6	個人情報を第三者に提供する場合、その旨を利用目的の中に明示し、利用者の同意を得ているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-7	個人情報の保存年限を定めているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[大学図書館員のための個人情報保護チェックシート・解説]

<組織体制について>

1-3. 個人情報保護責任者・委員会

→組織内で統一的に個人情報を管理するため、個人情報保護（管理）責任者、個人情報保護委員会などを設置し、活動・運営する必要がある。

参考情報：文部科学省告示第百六十一号 第三（四）「事業者が講ずべき措置の適切かつ有効な実施を図るための指針となるべき事項」

<委託について>

3-2. 委託契約

→JIS Q 15001においては、事故時の責任分担についても契約書に明記するべきとされている。情報漏えいした場合の賠償について、契約書に「全額」「すべて」と明記されている例もありますが、すべての被害額を想定することは難しいとされ、現実的ではないと言われている。委託先と協議のうえ、無理のない契約を交わすことが必要でしょう。裁判費用および損害賠償費用の負担について明記することも一つの手段と言える。

参考情報：直江とよみ「やさしく読む『個人情報保護法』」

<http://www.atmarkit.co.jp/fsecurity/rensai/privacy01/privacy01.html>

3-3. 委託業者の個人情報保護の扱い

→個人情報保護法第22条において、委託
ことを契約として明記する。

**「チェック」が入らなかった項目や補足事項を
「解説」で確認**

5.2 チェックシートの特徴

「個人情報保護」という重要リスクに対応
業務の見直し
危機管理意識の波及効果
大学図書館の事例に特化
図書館の規模を問わず、使用可能

6. おわりに

今後の予定

- 3月に向けて論文作成
- 「大学図書館員のための個人情報保護チェックシート」・「解説」及び論文はHPで公開予定

HPは

私立大学図書館協会 > 東地区部会 > 研究部 >

パブリック・サービス研究分科会 リスクマネジメントグループ



コンソーシアム研究

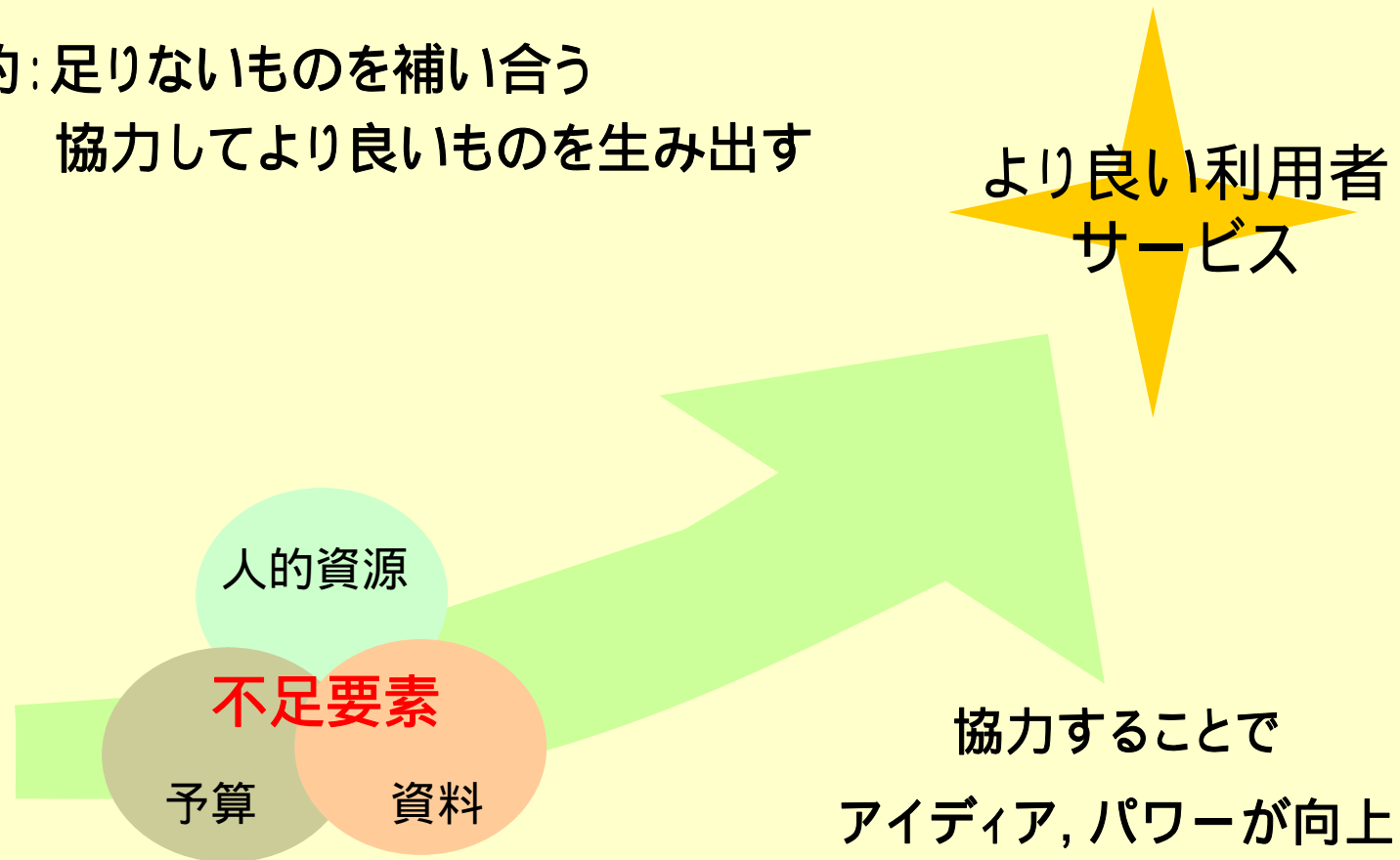
- Tampa Bay Library Consortium の事例に学ぶ -

パブリック・サービス研究分科会
コンソーシアム研究グループ

図書館コンソーシアム

コンソーシアム：「連合、協同事業体」

目的：足りないものを補い合う
協力してより良いものを生み出す



国内外の図書館コンソーシアムを研究

日本

共同購入中心

地域的集まりで利用者サービス

米国

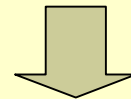
長い歴史

多様性

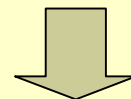
地域的集まりで様々な活動

問題意識

- ・コンソーシアムをうまく機能させる要素は何か
- ・今後の大学図書館コンソーシアムで参考となる事例



特に充実した活動をしているコンソーシアムを調査



Tampa Bay Library Consortiumの紹介

Tampa Bay Library Consortium (TBLC)

- ・1979年に発足
- ・フロリダ州にある6つの図書館コンソーシアムの一つ
- ・メンバー館は、2005年現在で95機関
- ・館種を問わず非営利図書館が参加



TBLCが提供する主な利用者サービス

Alleycat (横断検索 + Web リクエストシステム)

自宅から29参加館の所蔵資料をリクエスト、最寄の図書館で受取り可能

Librare (電子書籍コレクション)

NetLibrary (OCLC) の 電子書籍約3,600冊を自宅からも利用可能

Ask a Librarian (メールやチャットによるレファレンス)

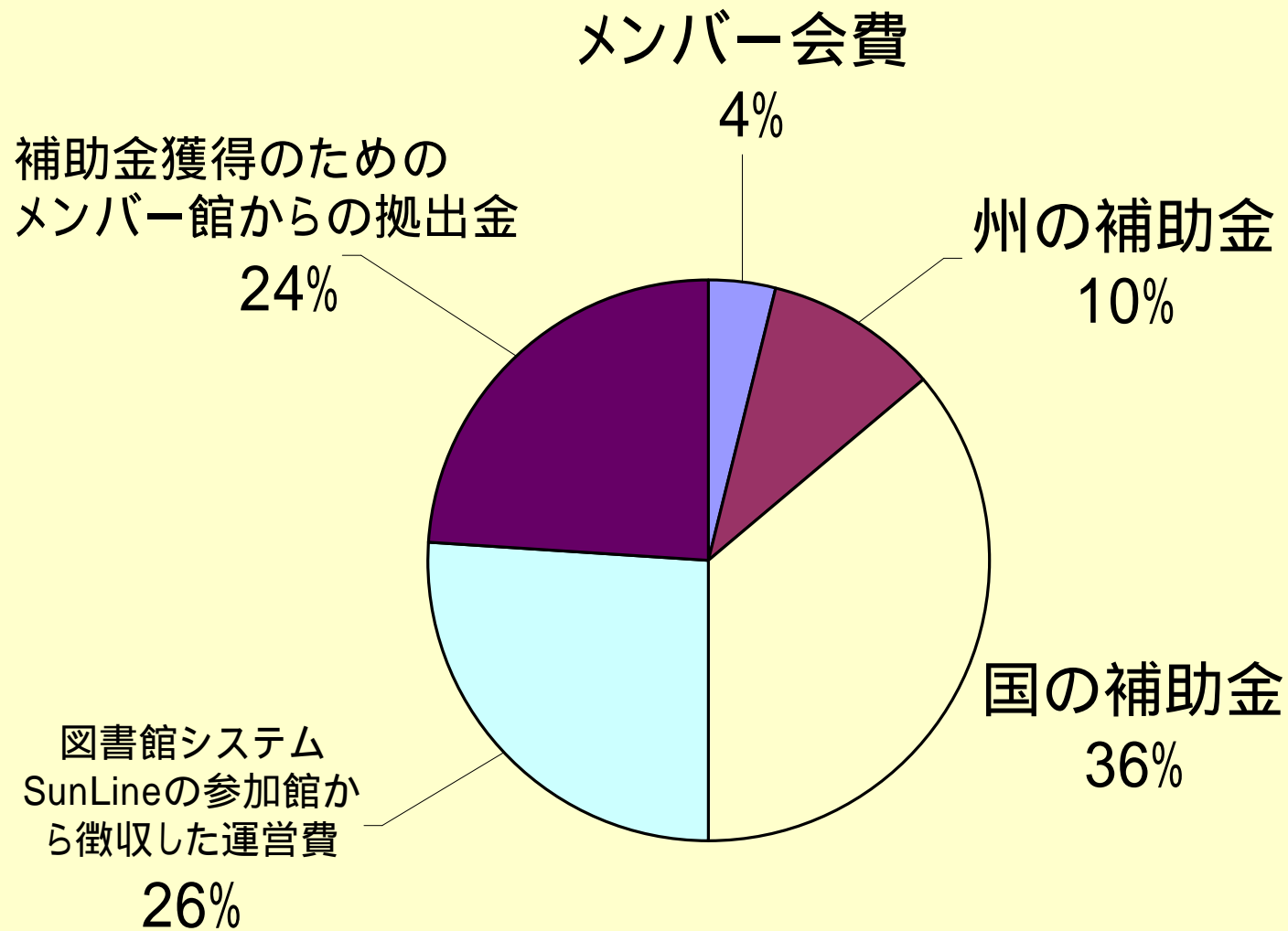
チャットによるレファレンス: 10 am - 10 pm(-5 pm on Sunday)

e-mail による受付: 24時間

Reciprocal Borrowing (資料の相互貸出し)

所属館の利用カードで、他の参加館に入館し資料を借りられる

TBLC 予算の内訳



予算:年間約240万ドル

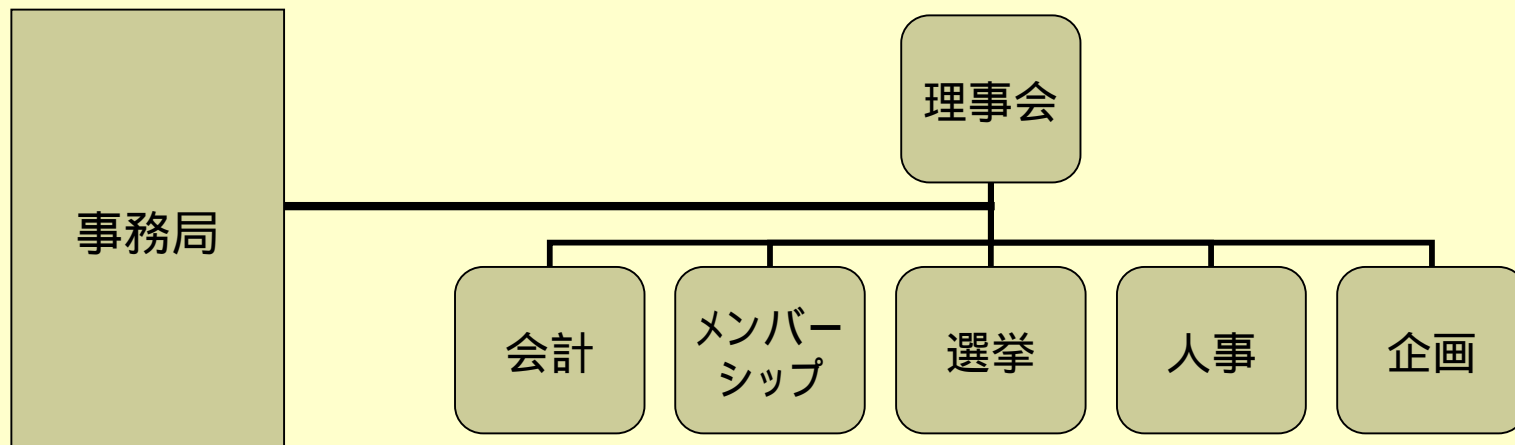
TBLC のすぐれた特徴

5つの特徴

1. 強固な組織体制
2. メンバー館に対するサポートが充実
3. 蔵書管理のための協力活動
4. 研修や情報交換の場を提供
5. メンバー館スタッフへの活動内容の周知徹底

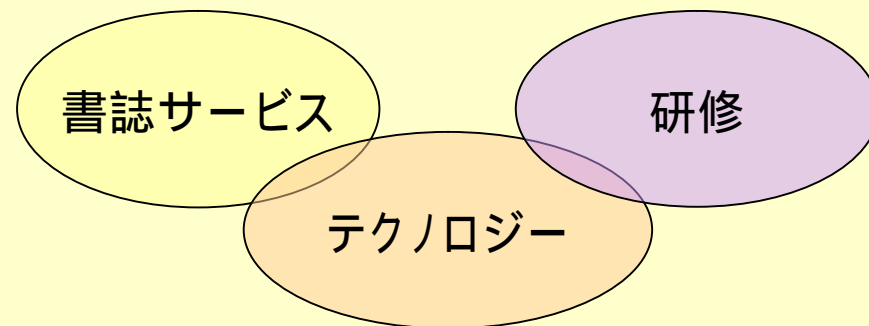
特徴1：組織と運営

組織



運営

- ・会則（1996年改定版）
- ・Annual Meeting



特徴2：メンバー館に対するサポート

Bibliographic Service

- ・メンバー館が所蔵する貴重書コレクションの目録作成
- ・書誌サービス・コーディネーター：目録作成上の疑問に答える
- ・目録に関する研修会、勉強会、メーリングリストの主宰

Technology

- ・図書館システム「SunLine」、横断検索システム「Alleycat」
などを開発
- ・メンバー館のテクノロジー・サービスに関する相談にも乗る

特徴3：蔵書構築と蔵書管理

コレクション・マネジメント・タスクフォース

TBLC全体のコレクションから特定のタイトルが
1冊も無くなるということがないように調整

協同蔵書構築プロジェクト

9つの主題別選書チームが電子書籍を選書

レファレンス・ブック交換制度

不要となったレファレンス・ブックの旧版を寄贈

新しい版を買う余裕のない図書館がそれをもらい受ける

電子ジャーナル・データベースなどのグループ購入

特徴4：研修と情報交換

ワークショップ

図書館マネジメント、デジタル化
目録と技術サービス、テクノロジー
パブリック・サービス、Teleconference
Special Interest Groups

Special Interest Groups

目録、情報リテラシー、
電子資源、ILL、レファレンス、
読書指導、システム管理、
多様な人々への図書館サービス

メーリング・リスト

図書館関連の様々なトピック別

特徴5：活動情報の共有と公開

ホームページの運用

- TBLC news
最新のお知らせをホームページ上で公開
- TBLC newsletter 「WaveLinks」
年に2,3回発行
TBLCとメンバー館のコミュニケーションのためのツール
- Annual Report
ホームページ上で公開
- Web 利用統計
TBLC がホストとなっているサイトの利用統計

TBLCに学ぶ成功の秘訣

TBLC 成功の鍵

プログラムへの選択的参加が可能

メンバー館のスタッフへの活動状況に関する
情報提供

スタッフ間の交流

独立した事務局および専任スタッフの存在

さいごに

大学評価制度

予算削減

電子的情報源の急増

図書館コンソーシアムのこれから

外国雑誌の価格高騰

学内情報の電子化・発信

今後の予定

論文作成

- ・ 様々なコンソーシアム活動の事例
- ・ アメリカにおける補助金支出の仕組み

パブリック・サービス研究分科会
【人材育成研究グループ】

「図書館スタッフ研修プログラムについて」

～人材育成のあり方～

図書館スタッフ 研修プログラム

「どのような人達に、どれくらいの深さで、
誰が、どの時期に実施するか！！」

- ・ 図書館スタッフ研修プログラム立案方針
- ・ 人材の「カテゴライズ」
- ・ 人材育成の「プロセス」
- ・ 人材育成プログラム全体構成
- ・ 研修項目(別紙)
- ・ 既存の研修プログラムについて(アンケート実施結果)
- ・ 新しい研修プログラムの提案
- ・ 研修プログラムを成功させるには・・・

・図書館スタッフ研修プログラム立案方針

「大学職員」としての「大学図書館スタッフ」
継続的・段階的なプログラム
ターゲットは専任、臨時、非常勤(委託、派遣)
管理職育成も考慮
役割、役職、経験年数、目標に柔軟に対応
各職場の実状に合わせて取捨選択
現場で実践できる研修プログラム

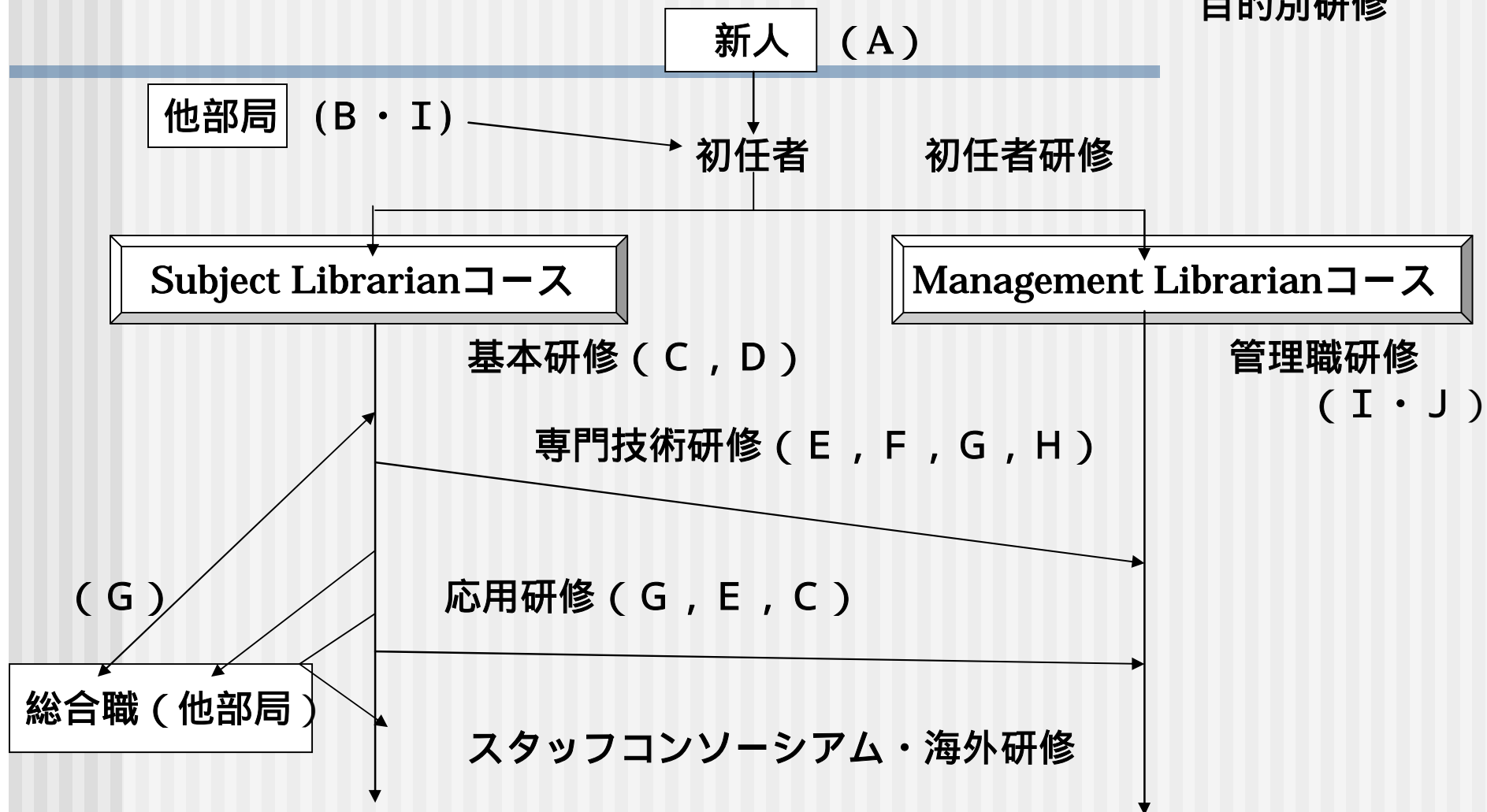
人材の「カテゴリーズ」

Subject Librarian	図書館経験	初任者	3年未満	3～5年	6年以上
	他部局経験				
	なし	A	C	E	G
あり	B	D	F	H	

Management Librarian	図書館経験	なし	あり
		I	J

・人材育成の「プロセス」

目的別研修



・人材育成プログラム全体構成

初任者研修 プログラム

基本研修 プログラム

専門技術研修 プログラム

応用研修 プログラム

管理職研修 プログラム

目的別研修 プログラム

スタッフ コンソーシアム プログラム

海外研修 プログラム

・ 研修項目

お手持ちの資料をご参照ください

- . 既存の研修プログラムについて

アンケート目的:

- * 既存研修プログラムの実態調査
- * 受講者意識調査

回答数: 94通

対象: 国立音楽大学・国士館大学・駒澤大学・成城大学
中央大学・中央学院大学・東京音楽大学
東京家政学院大学・東京国際大学・東京農業大学
東邦大学・東洋大学・文化女子大学・法政大学
武蔵大学・立教大学・麗澤大学 (順不同)

- . 既存の研修プログラムについて

【比較的高評価を得た研修】

「司書講習会」、「大学図書館職員講習会」、「著作権講習会」

「研究分科会」(図書館運営戦略分科会、レファレンス分科会

パブリック・サービス分科会・・・)

e.t.c.

【希望する研修内容の種類】

図書館基本業務

(基礎知識・専門知識・目録・資料保存・レファレンス)

システム関連

図書館管理・運営

業務事例(情報)交換テーブル

・新しい研修プログラムの提案

【基本ライン】

「講義」 - 「実践・演習」
- 「視察・見学」 - 「意見・事例交換」

【新規提案】

- * Management Librarian 研修
- * プロジェクトスタイル研修
- * スタッフ コンソーシアム (大学間相互人材交流)

研修プログラムを成功させるには・・・

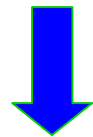
【どんな要因を考えたらいいか】

環境づくり(規程化 等)

人選(教育者、指導者、講師 等)

予算

モチベーション



現場にフィードバック!!!

研究会の詳細情報はホームページで！

<http://jaspul.org/e-kenkyu/public>

もしくは

私立大学図書館協会トップから

東地区部会

研究部

パブリック・サービス研究分科会

次期会員大募集